

麻疹（はしか）      Sep 7th 2000

1. どうやってうつるのか。

くしゃみや咳の時にウイルスを含んだしずく（滴）が鼻や眼の粘膜にくっつくとはしかの感染が成立する。

2. 潜伏期は？

ウイルスをもらってから 10 日目に鼻水や眼やにがはじまり、14 日目には発疹（ほっしん）が出始める。感染力があるのは 7 日目から発疹後 5 日目（18 日目）までの 12 日間である。

3. 症状は？

最初の 3 日間は鼻水や眼やにが多いが、眼やにの症状が弱い場合ほとんどふつうのかぜと区別できないが、いつものかぜよりも元気がなくてうんちがやわらかくなることもある。

この時期に口の中をのぞくと、上下の奥歯ではさまれた部分に白い斑点が見える。（コプリック斑という。）顔にブツブツが出る前でも、鼻水や眼やにが多く口の中に白い斑点があると、はしかが疑われる。

4 日目になると、耳の後ろもしくは額の前髪でかくれた部分にブツブツが出てくる。この頃になると、熱はさらに高くなり 40 度ぐらいにまで達する。ブツブツは顔から足に向かって下りていき、3 日から 4 日で足に達する。

ブツブツが足まで達するとほとんどは解熱傾向になる。ブツブツがでてから 3 日もしくは 4 日経過して（つまりブツブツが足まで達したあとに）熱が続く場合、合併症（特に中耳炎や肺炎）を考えなければならない。

4. どんな合併症があるのか。

中耳炎や肺炎はもちろん多いが、後遺症を残すものとしては麻疹脳炎がある。発疹後の 4 日間で起こることが多く、ほとんどがけいれんや意識障害で発症する。発症率は 1000 人あたり 0.5 から 1 人で、そのうち 20%から 40%に後遺症（発達の遅れ、けいれん、難聴、麻痺）が残り、15%が死亡する。

また 6-7 年後に 10 万人に 1 人の割合で SSPE（亜急性硬化性全脳炎）を発症することがある。症状は徐々に発症し、物忘れや学校の成績の低下で始まることもある。